

## 令和2年度 さいたま市立川通小学校 自己評価書

校長 染谷 隆 印

### 1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 全校を挙げた指導として「反復の学び・統一書式のノート指導」「家庭学習（自主学習・宿題）の習慣化」を進め、基礎的な学力の向上を目指す。また、自分の考えや意見を伝え合うと言った「言語活動の充実」、あわせて「読書量」を増やすことで、全教科に共通する表現力の向上を図る。
- (2) 一人ひとりのよさを認め合う好ましい人間関係づくりを推進し、日常の触れ合いを大切にしたい児童同士、児童と教員、児童と地域の方々、教員と保護者の好ましい人間関係を育成し、相手の立場を尊重しつつ思いやりをもって人と関わる力を育てる。
- (3) 「学校は安全と健康を育む教育機関」との認識に立ち、地域性を重視した健康・安全教育・食育を推進すると共に、相談体制（相談機会・相談日・相談スキル）を高めることを通して、子どもの心に寄り添う。
- (4) 地域に開かれた教育機関として、地域の資源を活用した教育活動を進めると共に、積極的な情報公開や学校開放を行う。また、音楽会や感謝の会等の世代間を越えた交流的な行事の実施、地域の特色に沿った学習を通して、地域の文化や郷土を尊重する態度を育てる。

### 2 評価結果について（○+4ポイント以上・△▽±3ポイント以内・●-4ポイント以上）

#### (1) 学習活動

- ・児童の取組である「自主的な学び」（◎60→79%○・◎83→89%○）、「読書をしている」（◎66→62%●・◎63→69%○）、「家庭学習」（◎68→77%○・◎86→82%●）と、学習については自分からやれるようになってきているが、家庭学習の取組については後退している。また、読書についても同様である。
- ・「教育目標の育成」（◎97→100%△）、「楽しく、分かりやすい授業」（◎98→99%△）と「勉強が分かる」（◎91→96%○）、学習が分かるようになってきており、学習指導全般に対する保護者からの評価もおおむね良い。
- ・学習指導における教職員評価は、家庭学習の指導に重点は置いているものの、点数を見ると上昇が見えていない部分もあることから、マイナス評価となっている。（◎91→86%●）

#### (2) 心の教育、いじめ・不登校等

- ・いじめ0件、不登校0人である。しかしながら、全校児童出席（「出停」は含めない）の日数が減少した。
- ・「思いやり」（◎95→85%●、◎95→85%●）、「たくましさ」（◎85→81%●、◎92→84%●）、「仲良くする」（◎99→95%●、◎99→96%▽）、特別活動等の時間に比例するように減少傾向である。しかしながら、「先生は頑張り褒めてくれる」（◎92→94%△）「何でも相談できる」（◎76→77%△）」と、児童との信頼関係は保たれている。

#### (3) 健康・安全の教育

- ・登下校時の事件・事故0件、「安全指導・いじめ防止の推進」（◎97→98%△）、「ルールを守って登下校」（◎94→95%△）であり、高ポイントで推移しており、防災・防犯等の地域の協力が届いている結果でもある。
- ・「教育相談の充実」（◎92→95%△、◎76→77%△）保護者と児童との認識の差はあるが、ほぼ横ばいで推移。

#### (4) 地域に開かれた学校

- ・「教育活動の公開・報告」（◎99→98%▽）、「協力者の皆さんへのあいさつ」（◎89→90%△・◎94→88%●）、「地域の特色を生かした教育活動」（◎99→99%△）に加え、「開かれた学校づくり」（◎97→90%●）。

### 3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・学力面においては、さらにアウトプットを重視した言語活動を通して基本的な学習事項を身に付けさせる。また、発達段階に応じて家庭と協力をしながら、読書週間、家庭学習の継続・定着そして学習習慣付けを図る。
- ・ICT(PCタブレット)を活用した自主学習法・家庭学習法が確立できるよう、指導方法の研修、改善を進める。
- ・コロナ禍による人との関わりの少なさが、思いやりや協調性を減らしている点を鑑みて、人間関係作りが進むよう、特別活動や人間関係プログラムなどの人間関係構築や、道徳の時間を柱に道徳教育をさらに推進する。
- ・「児童がさらに地域へ関わる」教育課程の実施、地域人材の活用に加え、ICTを用いた交流・授業形態を作るなど、校内外の人との関りを高めていく。また、引き続き農作物の栽培やその他の産業・文化を通して郷土理解を図らせる。